

「建国100年」事業の一環に 台湾の「八田技師公園」



台湾観光をPRする頼局長(中央)と飛輪海のメンバー — 大阪市内のホテル

来年5月開園式典

戦前の台湾で烏山頭ダム建設など水利事業に貢献した八田與一技師(金沢出身)をたたえる台湾台南県の「八田與一記念公園」オー

プニングセレモニーが、「中華民国建国百年」イベントの一環に位置付けられる。日程は予定通り、来年5月8日に決まった。観光PRで来日した台湾観光局の頼慧珍局長が25日、大阪市内での記者懇談会で報告した。記念公園は八田技師

の命日にあたる昨年5月8日、墓前祭に参列した台湾の馬英九総統が整備を表明し、先月10日に竣工。頼局長は北國新聞社などによる八田技師の功績を評価する活動が、台湾と石川県、金沢市との交流拡大をもたらしたとの認識を示し、石川で来春開催される「日台観光サミット」が一層の交流活発化をもたらすことを期待した。

25日には大阪市内のホテルで台湾観光局主催の「旅行台湾 感動100」PRイベントが開かれ、観光親善大使を務める台湾の人気アイドルグループ飛輪海が訪台を呼び掛けた。

県人事異動

中央病院建設へ準備室

新年度知事5期目の施策始動

県は新年度、健康福祉部に「新県立中央病院建設準備室」(仮称)を新設する。新年度には環境部内に「送水管耐震化推進室」(同)も設ける予定であり、谷本正憲知事が5期目の新施策として打ち出した県立中央病院の建て替えや、県水の送水管耐震化へ早速、庁内組織を見直し、事業の早期着手に向け動き出す。25日固まった4月6日付定期人事異動でも、新組織の人事が内定した。



水岡弘行氏 平 賢雄氏



橋本 満氏 山口茂範氏



龜谷松雄氏 高橋裕之氏



山崎友次氏 地井和裕氏



菊地修一氏 柏野健治氏



浅藤史夫氏 喜田孝雄氏

「新県立中央病院建設準備室」は、新健康福祉部長に就く木下公昭氏を室長に、室次長には中央病院長、地域医療推進室次長には中央病院長、中央病院長が実務の中心となる。専任3人、兼務9人の計12人体制でスタートする。送水管の2系統化を進める「送水管耐震化推進室」は、水野裕志環境部長が室長、室次長には浜田孝同部次長(水道用水担当)が就く。室内には計画、用地建設の3班を置き、専任8人、兼務8人の計16人体制となる見通しだ。

退職し、後任に山口茂宅(農林業公社副理事長)が就く。高橋裕之(道路建設課長)は昇任して土木部次長(兼務)となる。退職する北村清成(建設)は昇任して土木部次長(兼務)となる。退職する光交流局次長(県民心)は地井和裕(建築住宅)に昇任、浜野一郎(員事務局次長)に就任する。

商労水岡氏 橋本、亀谷氏昇任

次長級

水岡弘行企画振興部次長(空港活性化戦略担当)兼空港企画課長は、商工労働部次長兼企画調整室長に就任が固まった。同部の総括次長として部内の取りまとめ役を担う。退職する黒崎幸作教育次長(埋蔵文化財センター)は、健康推進課長も健康福祉部次長(医療・健康)に昇任する。

山本成一郎(農林水産)は、健康推進課長も健康福祉部次長(医療・健康)に昇任する。

山崎友次(税務課長)は、健康推進課長も健康福祉部次長(医療・健康)に昇任する。

山崎友次(税務課長)は、健康推進課長も健康福祉部次長(医療・健康)に昇任する。

山崎友次(税務課長)は、健康推進課長も健康福祉部次長(医療・健康)に昇任する。

山崎友次(税務課長)は、健康推進課長も健康福祉部次長(医療・健康)に昇任する。

教育次長に村澤氏 岩本氏は
次長兼務

県教委事務局人事では、教育次長(学校教育)に村澤勉教職員課長が昇任して就く方向となり、教職員課長には新屋長二郎氏(泉丘高副校長)を起用する。

県教委事務局



岩本弘子氏 村澤 勉氏
田島邦章氏 新屋長二郎氏



塚田勝之氏 池崎一人氏 越田嘉博氏 昔赤清幸氏
大島秀信氏 清水克弥氏 徳田 博氏 大森信夫氏
浅井豊樹氏 清水健次氏 表 正人氏 鮎谷義博氏
山本 樹氏 諏訪克之氏 大霜祥栄氏 内海隆明氏
手倉森一郎氏 中村純子氏 伊藤信一氏 村上 明氏

課長級

知事官房の一翼を担う秘書課長には昔赤清幸人事課長が回る。総務課長兼人権推進室長兼県立大学法人化準備室次長には大森信夫経営支援課長、人事課長に鮎谷義博労働企画課長兼産業人材政策室次長兼少子化対策監室担当課長、財政課長に総務省出身の内海隆明企画課長兼都心地区整備構想推進室課長兼新幹線・交通対策監室副課長、交通対策監室副課長兼世界遺産推進室次長には、徳田博秘書課上席政策調整員が起用される。高等

荒井氏は内閣参事官に
内閣参事官に
荒井仁志総務部長が総務省大臣官房付を経て内閣参事官(内閣官房副長官補付)に就き、針田哲健康福祉部長は、厚労省精神・障害保険課医療観察法医療体制整備推進室長となること固まった。

飯幸副企画振興部長(高等教育担当)は文科省学術機関課課長補佐、重永将志厚生政策課長は厚労省事業管理課課長補佐、齋藤健一森林管理課担当課長(森林政策担当)は林野庁森林整備部計画課課長補佐(山村振興企画班担当)に就く。

画課長兼都心地区整備構想推進室課長兼新幹線・交通対策監室副課長、交通対策監室副課長兼世界遺産推進室次長の起用がそれぞれ決まった。

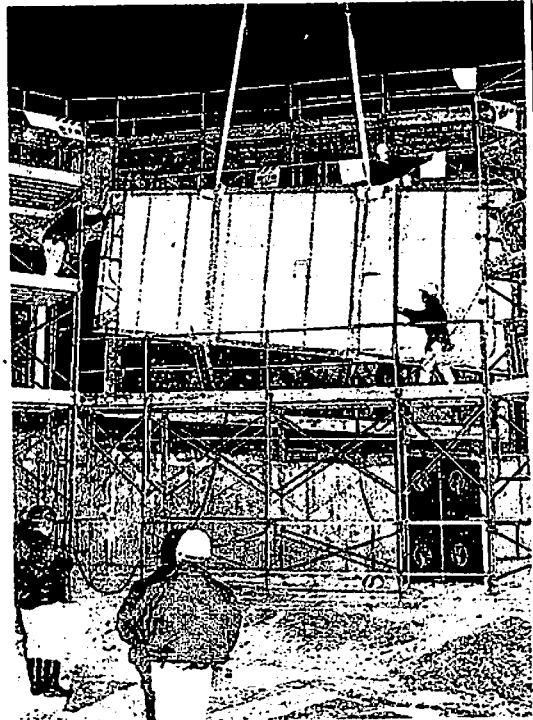
危機対策課長には村上明消防保安課長が就き、村上氏の後任には越田嘉博農業政策課(いしかわ農業人材機構担当)担当課長が昇任する。

企画課長兼新幹線・交通対策監室副課長、交通対策監室副課長兼世界遺産推進室次長に池崎一人危機対策課長を起用。退職の多賀憲二県民生活課長兼食品安全対策室次長の後任は清水克弥人事課参事兼課長補佐が昇任する。

厚労省に復帰する重永将志厚生政策課長兼少子化対策監室担当課長兼ねりんピック推進室次長兼地域医療推進室次長の後任に、清水健次同監室子ども政策担当課長が回り、清水氏の後任には厚労省から諏訪克之保険課長補佐が暫任する。長寿社会課長兼ねりんピック推進室次長兼地域医療推進室次長には中村純子同課参事兼課長補佐が昇任、塚田勝之

環境部企画調整室次長は、医療対策課長兼地域医療推進室次長兼新県立中央病院建設準備室課長に就く。

産業立地課長兼港湾活用推進室次長に浅井豊樹商工労働部企画調整室次長、経営支援課長併任世界遺産推進室次長に山本樹事務課参事兼課長補佐、労働企画課長兼産業人材政策室次長兼少子化対策監室担当課長に厚労省出身の手倉森一郎同課担当課長兼緊急雇用対策室長がそれぞれ昇任して就く。



パノラマ大水槽に設置される大型のアクリルパネル＝七尾市ののとじま水族館で

パノラマ大水槽着々

のとじま
水族館

アクリルパネル設置

のとじま水族館(七尾市)で、今秋オープン予定のシンベエザメなどを展示するパノラマ大水槽に使うアクリルパネルが二十四日夜、設置された。日本海側の水族館では最大となるパノラマ水槽は、深さ六尺、対角距

のアクリルパネルなど八枚を、作業員らが傷つけないよう慎重に取り付けていった。

午後七時ごろから始まった作業では、クレインを使って、最大で高さ一・八尺、幅八・三尺、重さ二〇・七ト

同水族館のパノラマ水槽は、世界でもめずらしい幅四・六尺、高さ三・二尺、奥行五・五尺の水槽内に張り出したのぞき窓が特徴。同水族館によると観覧者が水の中に入り込んだような感覚を味わえるという。側面全体は外側に五度傾斜しており、水槽内が迫ってくるような構造となる。

(福本英司)

加賀屋 客室係50人増員

「湯快」との差別化狙う

加賀屋（石川県七尾市）は二十五日、新年人増員する。加賀屋の機構改革を発表し「ランドの加工食品の販



接客係増員で顧客取り込みを狙う加賀屋＝石川県七尾市で

売にも力を入れ、売上高は倍増の五億円を目標とする。客室係を置かない「湯快リゾート」（東京都）が和倉進出を決める中、接客を手厚くして差別化を図る考え。増員で客室係は三百人体制になり、一人が一部屋を担当できる。宿泊客数のピークだった一九八八年ごろから徐々に減らしてきた接客係数を当時の水準に戻す。人件費は年間二億四千万円の負担増になるが、「接客係の弱み」（島本政雄専務）と判断した。採用は一

十一、四十五歳の女性。正社員として全国から既に募集を始めていた。六月末までに採用を終える。

加工食品は現在の五種類から増やす。グループの旅館や料理店で使う食材をまとめて加工する「集中仕込厨房」を新設し、商開発を担当。近年はおせち料理を全国の百貨店

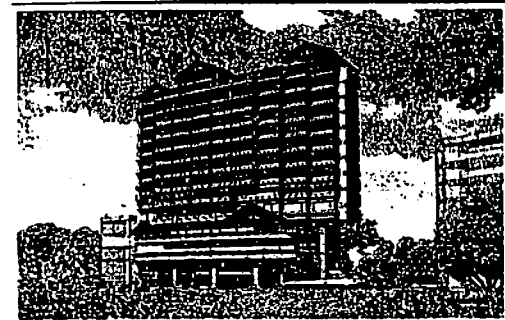
で販売し、年間二億円を売り上げるなど好調。能登産ブリの加工品などが新商品の候補という。

和倉温泉ではサービスを省いた「旅館が春以降に開業を予定。湯快リゾートが旧ホテル金波荘を再生するほか、加賀屋も旧ホテルたなを客室係を置か

ないビュッフェ形式の旅館「虹と海」として四月末にオープンさせる。接客強化が集客につながるか注目されそうだ。

機構改革では、十一月に台湾で開業予定のフランチャイズ旅館「加賀屋北投」の開業準備室を立ち上げ、十人が専従。金沢茶屋（金沢市）内に金沢事

務所を新設し、料理店の新規出店を検討する。（大島康介）



加賀屋は、台湾で11月に予定する「加賀屋北投」II完成イメージの開業準備を本格化させる。開業準備室のスタッフを5人増員し、10人体制とする。

加賀屋北投は台北市中心部から地下鉄で約30分の同市北投温泉に立地する。地

上14階、地下4階で客室は90室。純日本風のつくりで、一人当たりの料金は3万5千〜5万円前後になる見通し。

加賀屋北投は、加賀屋のフランチャイズとなり、加賀屋と台湾の日勝生活科技股份有限公司（台北市）との合弁会社が運営。加賀屋の出資比率は5%。

加賀屋北投の 開業準備進む

11月、台湾

スタッフは6月ごろから台湾に常駐し、営業計画の策定や備品の調達などを進める。現在、客室係として加賀屋で事前研修を受けている台湾人スタッフ10人を中心とし、客室係は総勢90人を見込む。

22.3.26

北中(朝・夕) 国際交流課

22.3.26

北国(朝・夕) 国際交流課

コマツ工機社長 佐々木 仁氏

経 済 人

やるしかたない

小松市内の合福団で指揮者を務めている。高校時代からの趣味だ。「みんなの気持ちを一にすること」の意味では、会社経営も共通した部分があるのかも知れない。両方とも難しいけどな。

不安の船出

社長になって間もなく1年。リーマン・ショックで売り上げが6割近く落ち込む中での就任は、正直言って「不安の船出」だった。「エンジンを乗り切るには社内を改革するしかない」と経費削減などに努め、今期は何とか黒字を確保できた。

「非常に苦勞した1年だったが、みんなが助けてくれた」。特に女性社員はコピー費や電話料、電気代、交通費の削減などに、きめ細かく頑張ってくれたと感謝している。長く技術畑を歩んできた

良い機械は良い人から



社員の「改善力」を高めたい

佐々木 仁氏 (東京都出身。東大工学部卒業後、1985年コマツ入社。コマツ工機常務執行役員製造部長などを経て06年4月から現職。49歳)

◆コマツ工機(小松市) 1994年、コマツ子会社として設立。自動車部品用工作機械や液晶製造装置など製造販売。資本金6億円。2009年3月期の売上高は約2050億円。

「良い機械は良い人から生まれる」と信じてやまない。母を追求するのはなく、最高レベルを目指すのがこのくわりの基本と想っている。そのためにも人材育成を大切に。教育を重視し、社員には常に「ポテンシャルを上げる」とハ

ツパを掛ける。設計や製造部門の社員には、国家技能検定をできるだけでなく受験させている。「製造現場だけでなく、すべての社員が人間像をしっかりと形成していくことが大事なんです。冗談交じりに、たとえ会社がつぶれたとしても、自分

一人で生きていけるようになれと言っています」
今年には新製品の開発にも力を入れた。自動車のクランクシャフト(回転軸)の新たな加工機を造り、10、11月に開かれる日本国際工作機械見本市に出展するつもりだ。中国やインドなど新興国では自動車の需要が拡大しており、「どんどんチャレンジしていく」。

「シンパ増やす」

国内外を飛び回る日々だ。今年に入ってから北米や中国、インド、台湾、韓国などを訪れ、「トップセールスを勉強させてもらっている」。営業面では「フェース・トゥ・フェース」で理解し合うことが大切だと身に染みて感じている。

「1社でも多くコマツシンパを増やしたいね。会社の「指針者」として社員をまとめて、競争に打ち勝ちたい」。

22. 3. 26

北国(朝・夕)
国際交流課

アフリカのトーゴなど10カ国が日本に大使館を置かずに北京の在中国大使館で対日外交実務を行っていることが25日、判明した。参院外交防衛委員会で、福山哲郎外務副大臣が明らかにした。
福山氏は、在日大使館

日本に大使館置かず

10カ国、中国で対日実務

に対中実務を委ねている国は、「1カ国もない」とも説明、日中の国際的な影響力の差が浮き彫りになった。
10カ国のうち8カ国はアフリカ諸国。西部のト

ーゴ、ギニアビサウ、シエラレオネ、ニシエール、中部のコンゴ共和国と赤道ギニア、ブルンジ、東部のセーシエル。
資源獲得を目指す中国は、アフリカに政府要

人を頻繁に派遣するなど活発な外交を展開しており、「現地での日本の存在感に中国に比べれば明らかに見劣りがする」(日本政府筋)という状況が背景にあるとみら

アフリカ諸国など

影響力を反映

れる。
残りの2カ国は地中海に浮かぶキプロスとマルタ。日本外務省によると、ブルンジは1989年に在日大使館を開設したが、97年に閉鎖。コンゴ共和国も96年に新設したが98年に閉鎖したとい

中国に「ニセ記者村」

【北京＝朝田慶祐】中国紙・北京農報。

山西省で、記者になりすま 偽記者の多くは失業中の若者で、中には現金収入が材し、当局への「口止め料」として現金を受け取るの、転職組、もいる。偽記料」が横行している。中に者らは、偽造した記者証や名刺を見せて、違法採掘を指摘するとともに、車代などの名目で口止め料を要求。相場は三百―五百元

「山西省に記者村大量に出現 あらゆる手口で百発百中」と報じたのは、中国

違法炭鉱取材、口止め料要求

炭鉱が閉鎖のため爆破され、近くにいた八人が死傷したが、その多くが偽記者だった。入院中に本物の記者の訪問を受けた偽記者は、相手も偽記者だと勘違いし「同業者ですね」と切り出し、近況をどうこうと話したという。

山西省は中国有数の石炭産地。違法採掘が発覚すれば閉鎖に追い込まれるが、中国紙・新京報は「管理の手ぬるさが、偽記者の遍末となっている」との専門家の指摘を紹介し、地元当局を批判した。

日本と韓国の第二期歴史共同研究の報告書が公表された。日本による植民地支配の解釈などで多く相違点があったが、異論も隠さず公開した。隣国への理解を深め合う土台にしたい。

日韓歴史研究

共同研究は日韓の研究者三十四人が「古代史」「中近世史」「近現代史」「教科書小グループ」の四部門で二年半かけて協議を重ねた。双方の委員がそれぞれ論文を書き、互いにコメントをつけた。報告書の内容に

強制力はないが、双方の教育に反映させることを目的としている。

異なる史観認め進む

古代史などではいくつかの合意があったが、近現代史では対立が鮮明になった。だが、意見の相違を非公開とせず報告書に記載したことを評価したい。異なる史観を認め合うことが出発点になる。その延長線上でさまざまな史実についての共通認識も可能になる。

植民地下での日本語教育では、日本側が「近代的知識、技術を得るための道具」として認識されていた」と主張すれば、韓国側は「強制的な構造が存在した。我田引水の解釈だ」と反論した。近代史の全体像をみれば、韓国側は日本の同化政策が厳しく、戦時下では多くの朝鮮人が労役に駆り出されたが、贖罪意識が不十分だと批判した。日本側は日韓併合の歴史を両国だけの視点ではなく、当時のアジア、世界情勢を考えたから分析すべきだと主張し、植民地下で経済発展など一定の近代化が進んだ側面もあると指摘した。

第二期研究では初めて両国教科書を検証したが、激論となり会議

が何度も中断した。日本側委員からは「歴史研究への姿勢が違いうる」と悲観論も聞かれた。韓国側は日本の教科書で従軍慰安婦の記述が減ったことを「右傾化」と批判した。日本側は「検定制度によってさまざまな内容の教科書がある」と反論し、韓国の教科書には平和憲法など、日本の戦後民主主義への取り組みが言及されていないと不満を示した。

日韓の学生が共通して使える教科書が必要だという声もあったが、容易なことではない。意見交換を重ね、その成果を徐々に教科書に反映させるのが現実的ではないか。

いま日韓国民の相互訪問は年間四百五十万人を超え、韓流ドラマ、日本のアニメなど相手の文化への関心も高い。歴史という日韓のつげをテーマとする研究者には負担が多いただろうが、共同研究の継続を望みたい。

四百年余後の今も、日韓の歴史的大事件の一つが、十六世紀末、豊臣秀吉が朝鮮半島に出兵した「文禄・慶長の役」だ。韓国では「壬辰倭乱」、中国では「万曆朝鮮役」と呼ばれる。

報告では、韓国側から「明(当時の中国)と同盟国の朝鮮に対して、新たに海洋勢力として登場した日本が東北アジア地域の覇権交代を目指した」という点で、世界戦争の性格を持つ」と、東アジア三國戦争として研究を進める提案がなされた。

鹿兒島国際大の太田秀春准教授も「近代以降の概念やそれぞれの立場から脱却した視線や呼称が必要」とし、「朝鮮の役」と呼んで論考した。

太田氏は「明への侵攻拠点として朝鮮を治めていく必要があり、住民には還住(戦後、居住地に戻し生業に復帰させること)した場合は保護して統治した」と主張。

また「戦役中に日本から鉄砲が伝わり、築城技術も導入された」などと、結果的に韓国側にも

文禄・慶長の役

「双方の立場を超えた呼称を」

一定の発展を及ぼしたとの見方を示した。

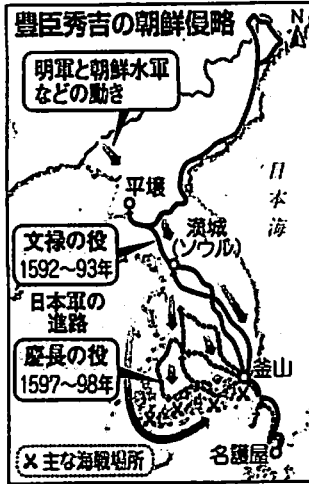
この「朝鮮の役」との表現に対し、韓国の京畿高等学校の玄明喆教授は「国内の反乱や辺境を騒がした行為を鎮圧する」という意味で「役」は使用されている。侵略当事者の戦争観を表す用語は、侵略者の見解に同化するものと感じられる」と否定的な姿勢を示した。

名称は、倭を使わない「壬辰戦乱」のほか、一五九二年から七年間に及んだことから「七年戦争」などが出た。

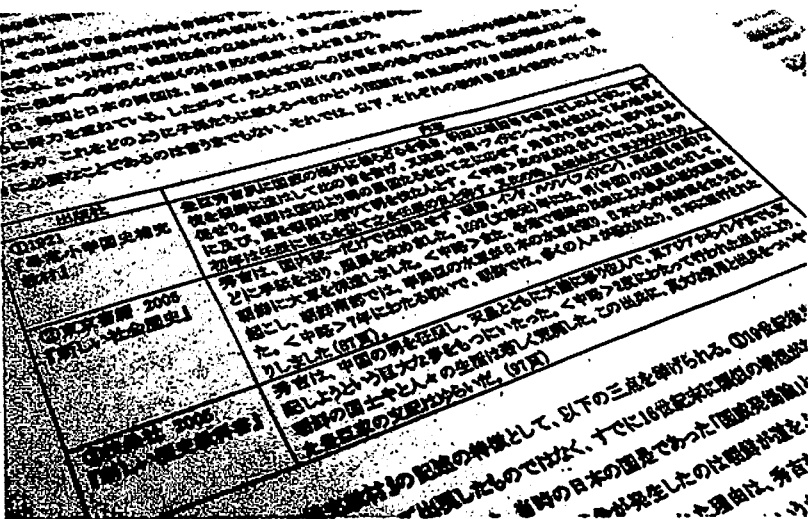
朝鮮の武器技術について、玄氏は「壬辰倭乱を通じ急激に発展した」とし、日本と歩調を合わせた。一方で「朝鮮と徳川幕府の間で平和な関係が

「反省から徳川と以後 平和な関係」

維持されたのは、壬辰倭乱などと分析した。秀吉の評価について、たためた」と指摘。日本側研究委員を務めた山室建徳帝京大准教授は「初等・中等教育の教科書に、読み書きそろばん高く評価するほど、反射的に侵略への警戒心を抱くのは自然。秀吉の出世が非常に魅力的で、それが強調されたのは、明治時代に「大陸膨張」という当時直面していた課題に非常に適合した人物だったのが主な原因」で特定の評価を書くべき



豊臣秀吉の日本軍と戦った朝鮮水軍の英雄・李舜臣の巨大な像
韓国・釜山市の竜頭山公園で



豊臣秀吉が行った「文禄・慶長の役」の教科書の記述を比較して論じた韓国歴史学者の報告書の一部

でないというのが私の考え」と話す。共同研究は特に近現代史で溝が鮮明になったが、政府レベルで今後も継続すべきなのか。山室氏は「今後も同じ作業を続けるのは疑問を感じる。ワールドカップ(W杯)選手のように國を代表する形となり、主張が硬直化する。個人めし、利益を脱いで、個人的な交流を確立したほうが有効ではないか。互いに近現代史の立場の違いを認識するのが大切だ」。前出の木村氏は「任那日本府は、日本がここで認識を変えたと韓国側が考える」と誤解で、現在の日本人の常識的な考えが、研究にまともめられ、交換して理解された」と強調して、こう唱えた。「共同研究の目標をどう設定するかが問題。歴史認識が国で違つのは当然で、研究者が集まれば解決するものではない。問題点を挙げて検討し、政治や世論に投げ掛けていく」と、研究を続ける意義があるだろう」と

「互いの違い知って研究継続」

日韓歴史研究

未来志向で検証

従軍慰安婦問題や憲法など、教科書記述をめぐる認識の違いが浮き彫りとなった日韓の第2期歴史共同研究の報告書。学者らの応酬で調査継続を問う声も出ているが、研究の新たな視点や成果もあった。中でも「任那日本府説」と、豊臣秀吉の「文禄・慶長の役」の論争の行方は興味深い。今年が「韓国併合」100年。日本古代史と中近世史の点から探った「未来志向」の線とは一。(岩岡千景、桑淳哉)

二〇〇二年の教科書調査はほぼ否定されている」と題を契機に始まった「日」の見解で一致。日本側も韓歴史共同研究委員用語を「使わない方がいい」と同意した。日本で「二百三十三」と同意した。研究に参加した木村幹版「詳説日本史」二〇〇〇年、最も注目されるのは任那日本府説の放棄と、日本の研究者の間で「歴史の論議で重要は、半島南部支配説は三ナターニンツポイントになる」。韓国の各紙は、報告の「任那日本府」に関する部分と、共同研究の「成果」と大々的に報じた。任那日本府とは、大和朝廷が国をほぼ統一した四一六世紀、倭国(日本)が朝鮮半島南部の伽耶(加羅)地域に置いたとされる統治機関。「日本書紀」に記され、これを拠点に倭が伽耶、新羅、百濟を支配したとされる説があり、かつて教科書にも載っていた。

だが報告では、倭国の軍隊が南部で活動したとは認められるものの、大和朝廷が半島南部に拠点を築き、勢力を維持し続けたという理解は「否定されている」と説明。日韓の研究員による座談会でも、任那日本府について「軍事的な性格や政治機関としての性格は

ほぼ否定されている」と題を契機に始まった「日」の見解で一致。日本側も韓歴史共同研究委員用語を「使わない方がいい」と同意した。研究に参加した木村幹版「詳説日本史」二〇〇〇年、最も注目されるのは任那日本府説の放棄と、日本の研究者の間で「歴史の論議で重要は、半島南部支配説は三ナターニンツポイントになる」。韓国の各紙は、報告の「任那日本府」に関する部分と、共同研究の「成果」と大々的に報じた。任那日本府とは、大和朝廷が国をほぼ統一した四一六世紀、倭国(日本)が朝鮮半島南部の伽耶(加羅)地域に置いたとされる統治機関。「日本書紀」に記され、これを拠点に倭が伽耶、新羅、百濟を支配したとされる説があり、かつて教科書にも載っていた。

現在、四世紀後半に高句麗が南下策を進めると、朝鮮半島南部の鉄路、木村氏は「韓国側に資源を確保するために、日本人が造った歴史観を保持している」という。早くから伽耶と密接な関係を持っていた倭国(大)誤解がある」といふ。

韓日歴史共同研究委員会 第一次會議 2002. 9. 25

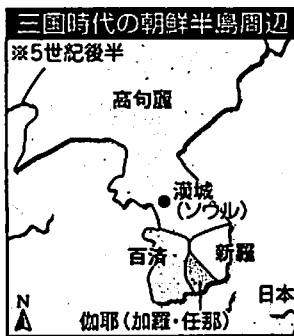
「任那日本府は、日本が韓国に行った植民地支配を正当化する戦前の歴史観と連続するもので、日本府の放棄は戦前の歴史観の放棄といえる」と主張している。

「任那日本府は、日本が韓国に行った植民地支配を正当化する戦前の歴史観と連続するもので、日本府の放棄は戦前の歴史観の放棄といえる」と主張している。

また報告では、韓国側から「新羅と日本を行き来した数多くの使臣たちの交流にも言及すべきだ」と指摘された。統一新羅以降、百年以上の間日本から新羅に派遣された使臣は二十六回、新羅からの遣日使は四十七回。同時期の遣唐使は七回で、教科書に記述されないのは「中国中心史観から出た発想だ」と報告は言及。研究協力者の井上直樹(京都府立大文学部准教授)は「研究や正倉院の所蔵物などから歴史上、新羅との間の外交が深かったのは分かっており、教科書に記述が入っていない」と話す。

任那日本府

見解を共有 今は統治否定



2002年5月、ソウル市内での初会合で握手する「日韓歴史共同研究委員会」の両国座長。見解の相違や対立もあったが、今月23日、第2期の研究報告書を公表した(共同)

「泣一げは、山からもっこ来るぞ」。幼少時、この守歌が怖かった。もっことは蒙古で元寇(げんごう)のこと。後に部隊の多くが朝鮮人と知る。日本侵攻から三百年後に秀吉に侵略され、戦った水軍の全将が率領。その傍が釜山から対馬方向を向くが、敵う心は(恨)は(心)の深水の裏返しだ。(西)